

長期休暇における高圧ガス保安対策

長期休暇時は、圧力上昇による事故・トラブルが発生しやすくなります。下記の注意事項を順守いただき、事故防止願います。

・ 容器は高温にならないように保管しましょう。

直射日光を避け、通風の良い場所で常に40℃以下となる場所に保管してください。

・ 容器が転倒・転落しないように保管しましょう。

ロープや鎖等で、容器を柱や壁等に固定し、転倒防止措置を取りましょう。

・ 容器と火気の距離を確保しましょう。

容器と火気との距離は2m以上、作業場所から5m以内は火気の使用を禁止し、発火性、引火性のものを置かないようにしましょう。



① 休暇前には、容器バルブと使用側バルブを閉めましょう。

② 無人となる場合は、不要な容器は置かないようにしてください。

③ LGC容器は以下の圧力以上にならないようにしましょう。

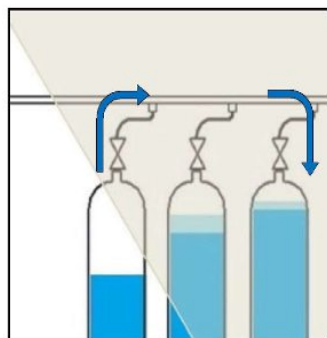
<O₂、N₂、Ar : 1.37MPa、CO₂ : 2.45MPa>

④ 休暇中でも、1日1回以上点検を行い、圧力・漏れ等の確認をしましょう。

⑤ 業務再開時には、容器・バルブ・フレキ・配管等の状況確認を行い、容器バルブ、使用側バルブをゆっくり開き、安全に使用しましょう。

⑥ 容器間の液移動現象が発生しないように使用しましょう。

容器間の液移動現象とは



日射量等の差により容器間に温度差が生じると、温度の高い容器から温度の低い容器へガスが流れ、容器内で冷やされることによって容器内の液量が増加する現象です。充てん容器に液が移動すると過充填状態となり、大事故につながりかねない大変危険な状態となります。

<対策>

- ・ 容器の使用環境を均一化する(外気温、日射量、散水量 等)
- ・ 容器ごとに逆止弁を設置する 等

LGCの長期休暇における注意事項

■長期間ご使用されない場合以下の手順にて弁操作を行ってください。

- ①消費側配管に接続している場合、液体取出弁(E)及び(C)保圧弁を閉じる
- ②消費側配管に接続していない場合、(C)保圧弁を閉じる

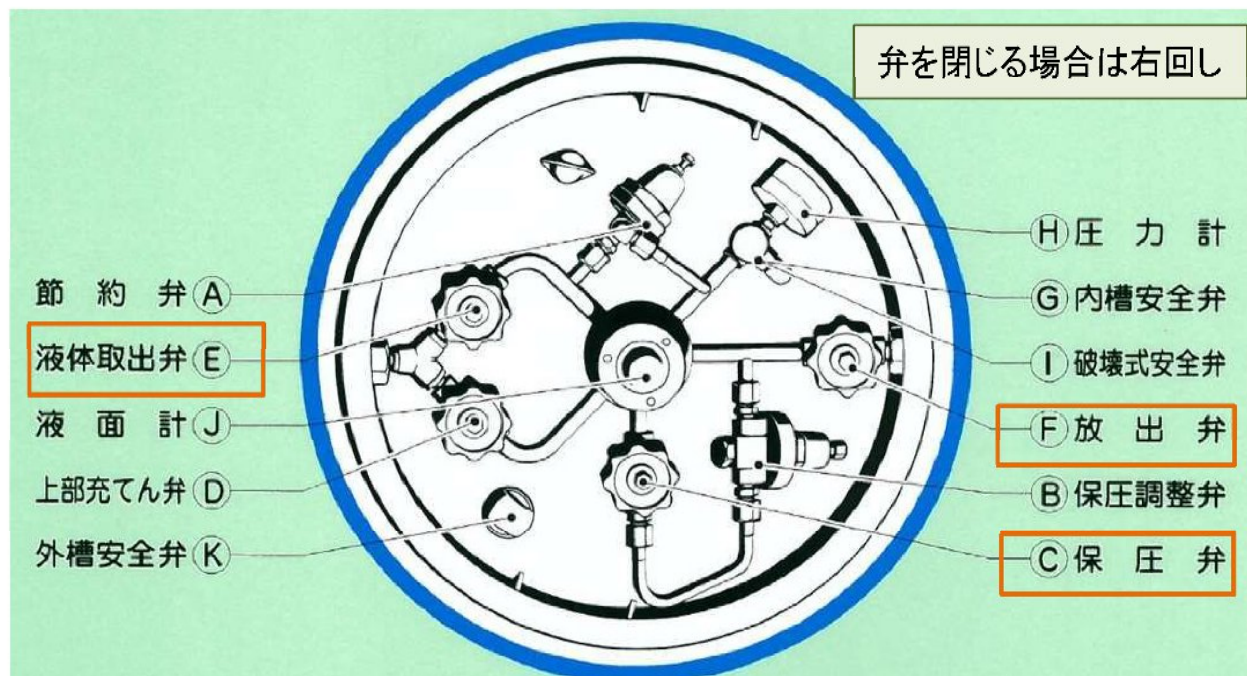
【管理圧力の目安】酸素、アルゴン：1.37MPa以下、炭酸：2.45MPa以下

※万一、停止中に圧力上昇の恐れがある場合は、(F)放出弁により、できるだけLGC内の圧力を下げてください。(放出口の前に立たないこと、十分に換気できることを確認してから、開放は徐々に行い、急激に圧力を下げないように注意してください。

炭酸ガスの場合、0.42MPa以下になると、容器内でドライアイスが形成され、液化ガスを取り出すのが困難になります。よって、容器内圧力は1.0MPa未満にならないように管理をしてください。

※安全弁は絶対に閉じないでください

LGCの仕様図(スーパー45G)



〈注意〉上図の弁名称や位置については機種により異なりますので、不明点等ございましたら弊社担当までお問い合わせください

不要な容器については、できるだけ返却しましょう。